



栃木県水産試験場の業務概要

(平成 30 年度)



本県の水産の概況

本県には那珂川、鬼怒川、渡良瀬川、思川の各水系に属する河川湖沼や、広大な水田地帯など、多様な水域環境が存在し、アユ、ニッコウイワナ、ミヤコタナゴなど約 60 種の水生生物が生息しています。そして、これらの豊かな水域生態系を背景とした河川湖沼漁業・養殖漁業が展開されています。

(1) 河川湖沼漁業

豊富なアユの天然遡上がある那珂川水系をはじめ、県内全域でイワナ、ヤマメ、アユ、ウグイなどを主体とした漁業や釣りが行われています。漁獲量はアユが最も多く（全国第 3 位）、平成 28 年には全体の 98% を占めています（漁業・養殖業生産統計年報）。また、中禅寺湖などの自然湖や川俣湖、谷中湖などの人工湖は、ヒメマスやサクラマス（ヤマメ）、コイ、ワカサギなどの好漁場となっています。これらの河川湖沼では、22 の漁業協同組合が第 5 種共同漁業権の免許を受け、水産資源の保護増殖や漁場管理に当たっています。近年、原発事故による放射性物質拡散の影響や魚病の発生による不漁、漁場荒廃による資源の減少などに起因して漁業者・遊漁者が減少しており、その対策や対応が強く求められています。

(2) 養殖漁業

収獲量の 41% を占めるアユ（全国第 5 位）、40% を占めるニジマス（全国第 4 位）やその他マス類（イワナ、ヤマメなど）を中心とした池中養殖漁業が 52 の経営体により行われています。近年、魚病の蔓延、養魚資材の高騰による生産コストの上昇や、養殖魚の販売不振・魚価の低迷による売上高の減少など様々な課題が顕在化しており、これまで以上に実需者・消費者ニーズに即した魚づくりやコストダウンが急務となっています。また養殖漁業は、河川湖沼への放流種苗を供給するという重要な役割も担っており、魅力ある漁場づくりに貢献できる種苗づくりが求められています。

(3) 一般県民の漁場利用

2013 年漁業センサスの調査結果では、年間約 114 千枚の遊漁承認証が発行されています。なかでも年間券の発行枚数は全国第 1 位に位置しており、栃木県の河川湖沼は全国屈指の漁場となっています。「地方創生」の機運が高まる中、水産資源は特色ある地域づくりの種としての魅力を有していることから、釣りや魚食を活かした地域への誘客ツールとしても期待されています。こうした中、アユの釣果向上や複数魚種を活用した中流域漁場の周年利用などによる「にぎわいのある漁場づくり」が求められています。

(4) 水域生態系の保全

多様な水生生物が生息する水田の水路や農業用ため池など、農村の水域生態系を保全・復元しようとする地域住民の意識が高まってきています。また、天然記念物ミヤコタナゴなどの希少魚を永続的に保全するための技術の確立が期待されています。

平成 30 年度、水産試験場は、

- 1) 地域資源としての魚類活用技術の確立
- 2) 新たな栃木のブランド魚開発

の重点研究課題を中心に、技術の開発、指導・普及・啓発の推進に努めていきます。

水産研究部の主な業務

水産研究部では本県の養殖漁業の振興並びに河川湖沼における魚類資源の維持増大を目的とし、各種試験研究及び指導普及業務等を実施しています。また、原発事故に伴う放射性セシウム拡散による魚類の汚染状況をモニタリングするため、天然魚及び養殖魚における放射性セシウム濃度の定期検査を行っています。

養殖漁業に関する試験研究では、養殖技術向上や魚病対策等に取り組んでいます。また、新たな技術の普及を進めるため、指導・検査・系統保存業務を行っています。

指導環境室では河川湖沼や農業用水路等に生息する魚類を対象に、漁場の維持・形成に役立つ増殖技術や資源管理技術の開発、水域生態系の保全・復元に関する試験研究を行っています。また、原発事故に伴う放射性セシウムが魚類へ蓄積・排出されるメカニズムの調査研究を進めています。その他、魚類や水域生態系に関心を持つ人などを対象として、広く県民の窓口として情報の集発信、相談、普及啓発の業務を行っています。

試験研究課題

生産コストの上昇により収益性が悪化している養殖生産において、他産地にはない特徴を備えた魚を創出し、ブランド化や販売力強化などによる「稼げる養殖業」の復活を目指します。

ア 新たな栃木のブランド魚開発

① プレミアムアユの開発

養殖アユのブランド化に向け、美味しさなど新たな特性を付与するための飼育技術開発に取り組みます。

② 管理釣り場向け新魚種の開発

養殖生産者の販売力強化のため、管理釣り場のニーズに応じた特徴（容姿、引きの強さ等）を備えたマス類の開発に取り組みます。

イ その他の課題

① 飼料高騰対策技術の確立

本県養殖業の競争力強化を高めるため、低魚粉飼料のコスト削減効果を明らかにします。

② 養殖生産コスト低減のための魚病被害軽減技術の確立

アユの異型細胞性鰓病やアユ・マス類の冷水病に対し有効な魚病被害軽減技術の確立に取り組みます。

③ 食の安全・安心・信頼性の確保に向けた魚病検査・モニタリング

養魚場での魚病症例や水産用医薬品使用状況をモニタリングし、魚病治療・防疫及び水産用医薬品の適性使用を指導により魚病被害の軽減を図ります。併せて、養殖魚の安全性確保に向けた養殖衛生管理を推進します。

④ 放射性セシウム汚染状況モニタリング調査

放射性セシウムによる汚染状況をモニタリングし、食品としての魚類の安全性確保に努めます。

⑤ 県漁連新種苗センターの生産技術支援

アユ種苗の安定的な生産・供給のために養魚と防疫に関する技術支援を行います。



(指導環境室)

河川湖沼の魚類を地域づくりの核として位置づけ、その有効利用技術を確立することで、地域活性化に貢献します。

試験研究課題

ア 地域資源としての魚類活用技術の確立

① アユ漁場活性化技術の開発

多くの釣り人でにぎわうアユ漁場の復活を目指し、釣果向上につながる効果的なアユ放流技術の開発やアユ釣り遊漁者の新規参入を増やす方策を検討します。

② サクラマス・戻りヤマメの資源調査

サクラマス・戻りヤマメ遊漁は若手遊漁者の新規参入が期待されることから、サクラマス・戻りヤマメを遊漁資源として有効活用するための資源状況や釣獲実態を調査します。

イ その他の課題

① 溪流漁場の活性化技術の開発

今まで取り組まれてきた成魚放流や稚魚放流に代わる効率的な放流技術の開発と、釣り人のニーズに対応した漁場運営を行うための手法を開発します。

② 天然アユの資源の増大と安定化技術の確立

那珂川におけるアユの遡上群数・漁獲量・遊漁者動向についてデータを収集・分析し、天然アユ資源を活かした漁場運営方法を提言します。

③ 外来魚対策技術の普及に向けた検討・整理及び駆除技術の高度化

コクチバスによる漁業被害が特に懸念される漁場を中心に、河川環境や漁協の実情等に応じた対策メニューを検討します。併せて、より効果的な駆除技術の開発に向けた知見の収集を行います。

④ 中禅寺湖における放射性セシウムの動態解明と対応策の構築

放射性セシウム汚染の将来見通しを立てるために、マス類における放射性セシウムの動態解明に取り組みます。また、キャッチ・アンドリリースにおいて魚類資源を適切に維持増殖するための漁場管理・運営手法の開発に取り組みます。

⑤ ミヤコタナゴ保全・復元に向けた二枚貝増殖技術の確立

ミヤコタナゴが産卵に利用する二枚貝の分布と生息実態を明らかにします。また、自然環境下へ二枚貝を放流し定着させる技術や人為環境下で増殖・生産するための技術確立に取り組みます。



指導・普及・啓発業務

ア 河川湖沼における水産資源の維持増殖に関する技術指導

- ・漁業協同組合に対する増殖技術指導（アユ放流技術、人工産卵場造成、外来魚駆除、癸眼卵放流等）

イ 養殖技術の普及に関する技術指導

- ・養殖技術に関する指導
- ・魚類防疫等に関する指導及び検査
- ・水産用医薬品等適正使用に関する指導助言

ウ 水産資源、養殖技術、魚類防疫等に関する試験研究成果の発表並びに講演会の開催

- ・河川湖沼関係 年1回
- ・養殖及び病理関係 年1回

エ 刊行物の発行

- ・栃木県水産試験場研究報告第62号（平成29年度版） 年刊
- ・養殖技術、魚類防疫等に関する指導資料 随時

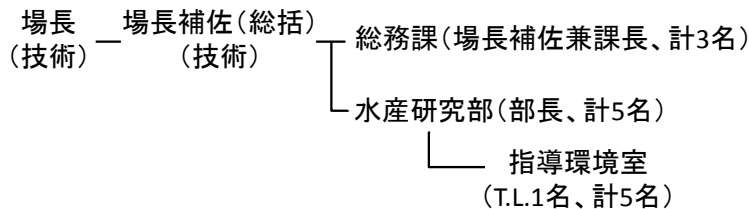
オ 情報の集発信

情報を広く収集・蓄積し、ホームページや Facebook、隣接する「栃木県なかがわ水遊園」等を利用して広報します。平成30年度は、小学生を対象とした「2018 水産試験場サマースクール」を開催します。【実施予定日：7月25日（水）要事前申込】

カ 栃木県なかがわ水遊園との連携・支援

「栃木県なかがわ水遊園」が行う展示への支援を行うとともに、イベント等を協賛して行います。

栃木県水産試験場の組織



栃木県水産試験場

〒324-0404 栃木県大田原市佐良土 2599

TEL 0287-98-2888 / FAX 0287-98-2885

e-mail t-suisan@isis.ocn.ne.jp

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g65/index.html>